

人と森が仲良くなって、すてきな未来につながってゆく。

mamori

No.13
Summer 2013

特集

いのちが育まれる
森のストーリー。

もりたび

付録

おやこ、ともだちで楽しむ
mamoriかるた5 この実の木を知りたいな

木とシェアした豊かな場所、暮らし

家族で楽しめる高知・山の施設

みどりのマモリピト

森からの贈り物

「mamori」は、木と人との共生、木の文化、
森林環境税を活用した事業を伝える冊子です。

高知県は森林環境税を活用して、将来を担う子ども達への森林環境教育や森川海の連携・交流など、県民の主体的な活動の支援、間伐をはじめとする森林保全等を推進しています。森林率84%という全国一の森林県であることを誇りに、県民がそれぞれの立場で森林の将来を考えて欲しいと願います。



イヌビワ(犬枇杷)

分類:クワ科の落葉小高木
果期:8月~11月

暖地の海岸近くから川岸、村落の池の周辺などに見られます。高さ2~5mで、オスとメスの木に分かれています。木に傷をつけると、白い汁が出るのが特徴。ビワに似た小さい果実がつくことが名前の由来になっています。



ガズミ(莢蒨)

分類:スイカズラ科の落葉低木
果期:9月~12月

北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島・中国に分布し、丘陵地に多く見られます。高さ2~5mで、葉は円形が多く、その先は短くつがっています。この仲間には、コバノガズミ、ミヤマガズミなどがあり、どの実も食べられます。



クリ(栗)

分類:ブナ科の落葉高木
果期:9月~11月

昔から大切な山の幸として親しまれているクリは、日本に広く分布し、栽培もされています。5~6月に10~15cmの細長いしっぽのような花が咲きますが、そのほとんどはオス花で、メス花は根元にひっそりと付いています。



ケンポナシ(玄圃梨)

分類:クロウメモドキ科の落葉高木
果期:9月~12月

日本から朝鮮、中国に分布する落葉高木で、ふつう高さ20mほどになります。初夏、枝先に小さな緑白色の花をたくさんつけます。長さ10~20cmの卵形で、縁にのこぎりの刃のようなふぞろいの切れこみがある葉がついています。

付録

おやこ、ともだちで楽しむ
mamoriかるた5

牧野植物園・夏から秋の催し
第13回夜の植物園 / 8月17日(土)、18日(日)、24日(土)、25日(日)
ハワイアンフラワーフェスティバル / 9月14日(土)~10月20日(日)
企画展 世界の三大穀物~イネ・ムギ・トウモロコシ / 10月5日(土)~
2014年2月2日(日)

執筆・監修 / 高知県立牧野植物園



アケビ(木通)

分類:アケビ科の落葉つる性木本
果期:9~10月

日本から朝鮮・中国東部に分布するつる性の木。4~5月頃、葉の間からたれ下がるように白から薄紫色の花が咲きます。アケビとミツバアケビの雑種であるゴヨウアケビが、山野で時々見つかります。



トチノキ(栃の木)

分類:トチノキ科の落葉高木
果期:9月

日本固有種で、高さ30m、直径2~5mほどの大木になります。5~6月になると、枝先に長さ20cmくらいの柄を直立させて、そのまわりに1.5cmほどの小さな花を多くつけます。公園樹などに広く利用される身近な木の一つです。



ヒメイタビ(姫崖爬藤)

分類:クワ科の常緑つる性木本
果期:10月~11月

千葉県より西の本州、四国、九州、沖縄、済州島に分布しています。オスの木とメスの木に分かれていて、幹は岩やがけ、樹木などに気根を出してよじ登ります。花は7~8月頃に、葉のわきに1個ずつつきます。



ヤマボウシ(山法師)

分類:ミズキ科の落葉高木
果期:9月~10月

本州、四国、九州に分布していて、花は5~7月頃に開きます。花びらのように見える4枚の白いものがじつは総苞片で、その中心に小さな花が球状に集まっています。最近では庭や公園で目にすることも多くなりました。



カンタロウの頭はどっち？と子どもたち。

土がもりあがったモグラの道。



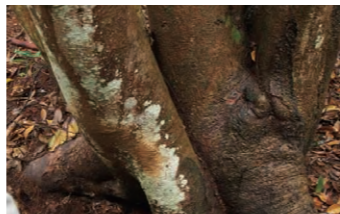
お昼からは子どもたちは木工の時間です。



洞窟にコウモリが住んでいたことにビックリしました。



ツリーハウスから顔をだす子どもたち。シダの飛行機を飛ばします。



イノシシが木に体をこすりつけた後にカビがはえていました。



これからアジロ自然の森に出発! はじめは整備された遊歩道です。

アジロ山と自然の環境を守る会の松岡さん。



ロープを使って岩を登っていく女の子。

「アジロ自然の森」は誰でも自由に遊べる里山です。
アジロ自然の森 住/高知市朝倉己、アジロ山
アジロ山の自然と環境を守る会 ☎/090・1001・1268(松岡)
森のようちえんは月に1回程度開催しています。



生き物がたくさんいる里山で、バッタも手に飛び込んできました。



この森にはいたるところに木のブランコがあります。



木の穴をほじって、何かいないかなあ? と探す二人です。

たもぴり

完倉トンネル 学芸中高 西樺町交差点
56 つかさちゃん弁当
至春野
アジロ自然の森

高知市にある里山、アジロ自然の森に行きました。

高知市中心部から車で20分程度、朝倉にあるアジロ自然の森で、親子参加の「森のようちえんinアジロ山」が開催されました。里山から多くのおくりものを、受け取りました。

里山に根をはる木々のゆたかさ。

高知市朝倉、アジロ山。ここは江戸時代、山内家の狩り場だった山で、決して大きくはありませんが、約70種の樹木が確認されている豊かな場所です。6月、高知市母親大会の特別野外分科会で「森のようちえんinアジロ山」が開催されました。最初は小雨が降っていましたが、鳥が空を飛びはじめ、「もうすぐ雨もあがるね。こんな日は山の緑が本当にきれいだし、雨が好きな虫も出てくるよ」と主催者の声。さっそく、アジロ自然の森に入ろうとする、大きなカンタロウが迎えに来て、子どもたちは驚いたり、喜んだり。近くには葉に糸を張ったクモもいました。

「アジロ山の自然と環境を守る会」の事務局長、松岡武志さんをはじめとするスタッフが先頭に立ち、親子を案内してくれます。遊歩道として整備された場所から、山道を登っていきます。その途中でスタッフが発見。子どもたちに「ここはモグラさんの通っている道だから踏まないでね」と話すと、大人もびつくりして「はじめに見ました」と口を揃え、興奮気味に「親子はスタッフからポイント、ポイントで木や草、動物などの話を聞き、納得したり感じます。柔らかくなった土(腐葉土)のうえをポンポンと飛んでクッションを楽しんだり、飛行機に見立てたシダを飛ばして喜んだり、木の穴をほじって何か出てこないかとチャレンジするなど、子どもたちは自由気ままに遊びます。そして、遊びながら山のこと、生き物のことを無意識のうちに理解しているようです。

洞窟でコウモリが、こんにちは。

頂上近くにはツリーハウスがあり、高知市内が一望できます。またここは木のブランコがあり、子どもたちの歓声が一段と大きくなりました。スタッフのひとりに、ここにあった炭焼き小屋の話が聞きました。「里山の木は伐るほうがいいんです。健全な山にはいろんな種の木や草があり、それらを好きな昆虫や小動物たちが集まってきます。以前は炭焼き小屋があったので、今より定期的に木を伐って炭にしていたはずですが。里山と人の関わりが減った今だからこそ、アジロ山の存在は貴重だと思います。」

ツリーハウスとその周辺で休憩したり遊んだ親子は、スタッフの先導で山を降ります。帰りのクライマックスは洞窟散策で、「コウモリがいるかもしれないので驚かせないように」と、グループにわかれて中へ入ります。途中、ライトを消して真っ暗体験も。コウモリも見ることができました。参加した小学校4年生の女の子は、「とっても楽しかったです。カンタロウやアマガエルが森にいたし、モグラの道やヘビの穴も教えてもらってはじめて見ました。」お母さんもうなずきながら「いたるところにブランコがあり、大人も童心にかえる場所でした。こういう自然体験は貴重です」と話してくれました。「森のようちえん」のあとは昼食をはさみ、子どもたちは木工教室、お母さんたちはおはなし会が行われました。

いのちが育まれる森のストーリー！

高知には森や里山がたくさんあり、いろいろな木が育っています。そして、そこには生き物が満ちています。それはどうしてでしょう？

マモルンと一緒に森を歩いてみると、その答えのヒントがつかめそうです。

森は生きものたちの楽園。

森にすむ生き物といえば、大きなクマやシカ、イノシシ、タヌキやウサギ、リス、ネズミなどが浮かんできます。でもそれは全体の一部です。春に美しい声で鳴くウグイスなどの小鳥、カブトムシやクワガタムシなどの昆虫、ヘビやトカゲなどの爬虫類、イモリやカエルなどの両生類、地面や土の中にいるダンゴムシやワラジムシ、ミミズもいます。森にとっても大事な役割をするカビや微生物もたくさんいます。もちろん、草や花、樹木など植物だって生きています。森の中には驚く

落ち葉をめぐったり、葉っぱの裏を見たり、木の幹にさわったり、木の実をさがしたり、倒れた木のまわりを探検したり…キミの近くにはたくさんの森や里山があるんだ。そこには生き物がいっぱいいることを、キミの手や足を使ってたしかめてみよう。それはとてもワクワクして新しい発見もある、楽しい時間だとおもおうよ。人も生き物なんだ。もっともっと森や里山で遊んでほしいな。



ほどたくさんさんの生命があり、森そのものが巨大な生き物のようなものです。ここで質問です。「森の中には驚くほどたくさんさんの生き物がすんでいます、どうしてでしょう？」。

葉っぱがだいじなんだね。
動物に葉っぱをたべられるとこまっちゃうね。
そうじゃないよ、動物もいないと森が死んじゃうんだ。

森と動物のバランスがだいじです。

植物の体(葉、幹、樹液、実、落ち葉)は、みんな昆虫や動物の食べものになります。例えば、葉はチョウやガの幼虫や、ウサギなどの草食動物が食べます。そのチョウやガは、小鳥たちやネズミなど小さな肉食動物が食べ、さらにそれをへびやイタチ、キツネ…と大きな肉食動物が食べて生きています。そして、昆虫や動物は死んだあと、地面や土の中で暮らすミミズや微生物などに食べられて分解されると、植物が育つ栄養になります。これを森の「食物連鎖」といいます。

この食物連鎖はバランスが大切です。バランスのよい状態なら元気のいい森ですが、このバランスがくずれると森がこわれることになりま。食物連鎖の仕組みは大切なのです。

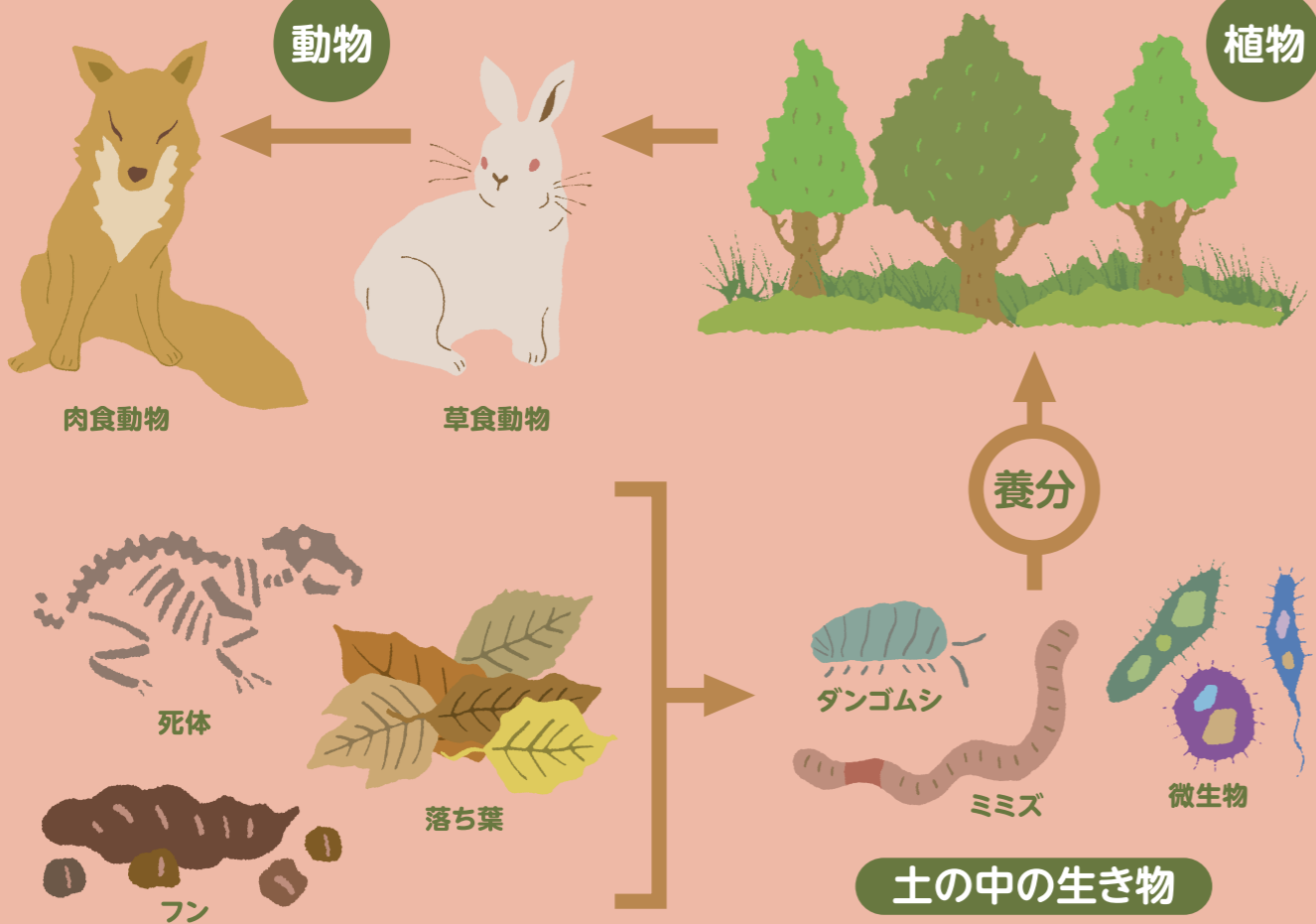
森の木には針みたいな細い葉の針葉樹と、幅広い葉の広葉樹と呼ばれる2つの種類があります。また、葉が一年中ずっと緑色のままで変わらない常緑樹と、秋になると葉が赤くなって落ちる落葉樹という分け方もあります。

では、森の木はどんな動きをするのでしょうか。針葉樹のスピノキはまっすぐしている性質があるので、建物の材料などによく使われています。広葉樹のコナラやクヌギが秋になると落とすドングリは、森の動物たちの大切な食べものでもあります。このような木が持つ働きを観察しながら森を歩くのも楽しいですね。

森の木もいろいろな種類があるよね。
針葉樹と広葉樹はどっちがうの？
それじゃあ、葉っぱを見てみよう。

森には色々な特性や役割を持っている木が育ちます。

森の中の食物連鎖



葉っぱとミミズの素敵な関係。

森の地面には、たくさん落ち葉がありますね。落ち葉の下には、ミミズやダンゴムシなどの小さな生き物が暮らしています。さらに、目に見えない小さなバクテリアなどの微生物もたくさんいます。

森の地面で暮らす生き物たちは、落ち葉、動物の死がい、動物のふんなどを食べることで細かくしています。それらはやがてもっと小さく分解されて、土の一部になり、植物にとっては天然の肥料となっています。だから、落ち葉で地面がふわふわして、生き物がたくさんいる森は元気がいいのです。

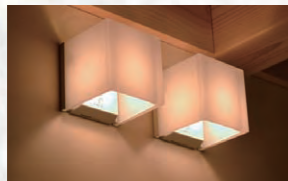
この土ってクッションみたい。
土なのにふわふわしているわ。
この落ち葉が、森をそだてているんだよ。



木の持つぬくもりや木組みの美しさを、建物全体で感じることができます。



大工の技術はもちろんのこと、土佐漆喰や土佐和紙など、職人たちの技が集結した建物です。



施設概要は木造2階建て、延床面積は1,157㎡、県産材だけでつくられた施設です。園生の快適性と健康に配慮して、OMソーラーによる全館床暖房を導入。また、太陽熱も利用し、建物の省エネルギー化を図っています。平成24年度「第10回高知県木の文化賞」を受賞しました。

社会福祉法人 高知小鳩会が運営する 障害者支援施設「あじさい園」

住／高知市春野町秋山2801-15
TEL／088-894-2828

高知県木の香るまちづくり推進事業

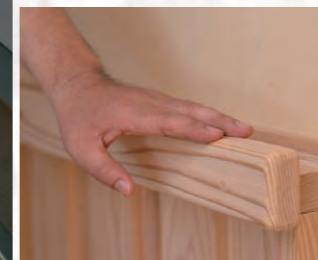
「木の文化構想」に基づく「木に親しむ」「木を活かす」活動の一環として、森林環境税を活用して、県産材を積極的に活用した公共的な空間等の整備に対して支援を行っています。例えば県内の幼稚園・保育所、小・中学校の児童生徒が日常的にふれあう木製品(机・椅子・遊具等)の購入経費に、補助率1/2以内(限度額500万円)で助成しています。

問い合わせ 県木材産業課 ☎/088-821-4591

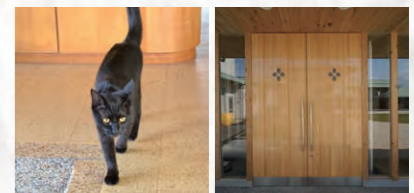
高知県産材を使った建物のストーリー。 木とシェアした 豊かな場所、暮らし Vol.1 障害者支援施設 あじさい園別館



乾燥した冬場には水分を放出し、雨の降る湿気の高い日は湿気を吸収するなど、木は調湿性を発揮し、快適な空間にしてくれます。



「ここには本当の木のぬくもりや香り、柔らかさがある」と話してくれた谷本さん。



木で作られた玄関の大きなドアが、訪れる人を優しく迎えている。

木の息吹が感じられる施設です。

高知市春野町秋山にある「あじさい園別館」の建物に使用した材木はすべて、高知を代表する魚梁瀬スキヤ、県産ヒノキなど。プレカットは使用せず、木材の加工は「一つひとつ、大工の手によって丁寧に仕上げられています。」

建物が呼吸しているんです。

「自分でお話できない園生がほとんどで感想を聞けませんが、皆の表情やくつろいでいる時の様子を見てみると、木の匂いや温かみ、自然のものに囲まれている環境は、とてもいい影響を与えていると思います。以前より精神的に落ち着いている姿をみて実感しますね。」
あじさい園の施設長である井上朋子さんは柔らかな表情で話してくれました。男性棟生活支援課長である谷本直哉さんは「僕たちスタッフも別館にいるときは、結構ハダシになりますね笑」。ニスを塗っていない木に直接触れる心地よさがあるじゃないですか。仕事自体は一緒ですが、知らず知らずのうちに、リラックスした雰囲気の仕事をしていると感じます。」同じく女性棟を担当する森澤清恵さんは、木の建物が生きていることに驚いたといいます。「夜、パチンコで木の割れる音が聞こえますし、亀裂も入ります。はじめはビックリしましたが、『木が生きている証拠だよ』という説明を聞き、納得しました」。井上さんも「この建物は木だけでなく、土佐漆喰や土佐和紙など自然の素材を使っていますから、呼吸しているっていうか、生きていて感じる受けます。そういうところに人が住めば、心も体も元気になるのかなと思いますよね。」

木が願いをかなえる。

平成24年7月に完成した障害者支援施設「あじさい園別館」は、「園生が終生安心して暮らせる家をつくる」というコンセプトのもと、最初から木造にこだわって、より良い住環境の充実をめざし実現しました。構想は以前からありましたが、具体的な設計に入ったのは平成23年の4月頃から。園生の気分に合わせて個室にも共通部屋にもできるよう壁をスライド収納し、家族がいる感覚を持てるような工夫や、園生が柱や机などにぶつかった時の怪我を防ぐため角を丸めたり、収納、日当たりのことなど、施設の各所に設計士の提案と、施設側の希望、園生と過ごすスタッフの声などを聞き、細部まで気配りされた建物が出来上がりました。「園生はここで毎日過ごしますから、木でつくった建物で、気持ちよく寝て、美味しい物を食べて、楽しく過ごしていく。これが親御さんの一番の願いであるだろうし、園生の幸せに結びついていくんじゃないかな」という思いがあります」と井上さん。将来は本館も木を存分に生かした建物へリニューアルする予定だそうです。



これ、何の実？

長さ1cmぐらいのとげがびっしりついた、いがの中に隠れているよ。秋になって食べられるぐらいに熟れてくると、いがが4つに割れて、中から茶色の実が3つくらい顔をだしてくるよ。蒸したり焼いたりして食べられているね。



これ、何の実？

長さ5～8mmぐらいの小さい実がたくさん集まってなるよ。はじめは鮮やかな紅色で、実が熟れてくると暗い赤色になるんだ。冬になって霜がおりるころには、渋さがとれて甘ずっぱくなって食べられるようになるよ。



これ、何の実？

大きさは直径2cmぐらいで、メスの木になる実はナスのような濃い紫色に熟してイチジクのような甘い味にするよ。オスの木にも実はなるけれど、うっすらと赤くなるだけで硬くて食べられないんだ。



これ、何の実？

ずっしりと大きい、だ円形の実の長さは10～15cmくらい。実の皮は厚くて、熟れると縦にぱかっぴらくよ。その中には黒い種をたくさん含んだ、白くて甘い果肉があるんだ。実の皮もてんぷらなどにして食べることができるよ。

付録
おやこ、ともだちで楽しむ

mamoriかるた5

この実の木を知りたいなら
高知を代表する木になる実だよ、
きつと学校のまわりや、
近くの公園、山、海岸にあるよ。
こんな大きな木に、
かわいもの、めずらしい形のもの、
みんなで探してね。
うらには木の名前と
とくちようが書いてあるよ。

実を食べるときは、必ず植物にくわしい人に聞いてから食べてね！
花や木の大きさは、違う場合もあるので、めやすにしてね



これ、何の実？

実の中には3個の種が入った直径7～10mmの丸い形。でも、食べられるのは実ではなくて、実のついた枝のほう。少しずつふくらんで、実が熟れるころにはまるでカレントウのような形になって食べられるようになるんだよ。



これ、何の実？

たくさんの小さな果実が集まって、1つの果実になっているよ。大きさは直径1.5cmぐらいで丸い形。はじめは緑色だけど、夏が終わるころには赤く熟して食べられるようになるんだ。実の中には小さな種が1～5個入っているよ。



これ、何の実？

イチジクの仲間のつる性の木で、緑色の直径2cmぐらいの丸い果実が葉っぱのわきに1個つくよ。灰色がかかった茶色になると、熟れていて食べられるようになるんだ。イチジクそっくりな甘さがあるよ。



これ、何の実？

果実の大きさは直径3～5cmの丸い形で、表面にはブツブツがいっぱい。熟すと3つに裂けて、1～2個の茶色の大きな種を出すよ。この種はデンプンが多くて、もちなどにして食べられているんだ。

高知県からのお知らせ

山の一日先生を派遣します

高知県では森林環境税を活用して、公益社団法人高知県森と緑の会を通じて、高知県こうち山の日推進事業(山の一日先生派遣)を行っています。この事業は森や山に対する理解や関心を深めることを目的として、子どもたち(または保護者や教職員など)を対象に森や山について、林業体験、木工・クラフト、自然観察などを通じて学ぶものです。この機会に是非山の一日先生をご活用ください。

【お問い合わせ先】
〒780-0870 高知市本町5丁目1-50 中沢ビル4階
公益社団法人 高知県森と緑の会
TEL/088-855-3905 FAX/088-855-3906

情報交流館で夏休みの思い出づくり

8月は木工クラフト強化月間です!夏休みの宿題をやっつけに、みんなで遊びに来て下さいね!



【8月の催し】
8月3日(土)、10日(土)、18日(日)
夏休みの宿題をやっつけよう!木工工作!
●時間/10:00～15:00
●参加費/200円～
●定員/各回70名
●電話予約をお願いします。

【毎週日曜日】

クラブハウスin情報交流館
竹を使っての竹とんぼやカッコウ木、木を使ってプランターや貯金箱などいろいろ作れるよ。

●時間/10:00～15:00
●材料費/100円～
●電話予約をお願いします。
〒782-0078 高知県香美市土佐山田町大80番地
高知県森林総合センター内 情報交流館
TEL/0887-52-0087
FAX/0887-82-0097
指定管理者/情報交流館ネットワーク
開館時間/8:30～17:15[休館日:月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始]
<http://www.k-kouryu.net/>

木材利用ポイントがはじまりました

木材を利用した場合にポイントが発行され、そのポイントを地域の農林水産品等と交換することができます。ポイントの発行対象になるのは、4月1日以降に着手した住宅建築やリフォーム、7月1日以降の木材製品や木質ベレットストーブ等の購入です。ポイントの発行対象になる工事ができる事業者や交換商品を提供する事業者等は登録制度になっており、下記の木材利用ポイント(全国)事務局ホームページに順次掲載されますので、ご覧ください。

ポイントの発行や交換の申請は、県内8つの窓口で7月から受け付けることになっております。この機会に積極的に県産木材をご利用ください。木材利用ポイント(全国)事務局ホームページ <http://mokusai-points.jp/>

【お問い合わせ先】
①高知県林業活性化推進協議会コンソーシアム事務局
高知県木材協会 TEL/088-883-6721
高知県素材生産業協同組合連合会 TEL/088-883-8504
高知県森林組合連合会 TEL/088-822-5101
②高知県木材産業課(木材販売促進担当) TEL/088-821-4858



※イベント内容や時間等、詳細については主催者にお問合せください。

アンケートにご協力下さい

① 高知県の「森林環境税」を知っていましたか。(1つだけ)

- ①内容なども良く知っている
- ②名前知っているが内容はあまり知らない
- ③知らない
- ④その他()

② 本誌をどちらで入手しましたか。(1つだけ)

- ①学校、幼・保育園などの教育機関
- ②観光施設や道の駅、直販所など
- ③図書館や郵便局、銀行、病院など公共施設
- ④スーパーや飲食店、美容院など
- ⑤その他()

③ 今回の誌面で興味を持ったページはありますか。(いくつでも)

- ①特集
- ②木とシェアした豊かな場所、暮らし
- ③家族で楽しめる高知・山の施設
- ④みどりのマモリヒト
- ⑤森からの贈り物
- ⑥mamoriかるた
- ⑦別のことを取り上げてほしい(例えば)

④ 本誌を読んで森林環境税の理解が深まりましたか。(1つだけ)

- ①良く理解できた
- ②少しは理解できた
- ③よくわからない
- ④その他()

⑤ 今後、「mamori」で取り上げてほしいテーマはありますか。(いくつでも)

- ①森林や、森林環境税の広報
- ②森林や山を守る県民の活動
- ③子供たちの森林環境学習
- ④間伐など森林整備の活動
- ⑤地域住民による荒廃した里山・竹林の整備活動
- ⑥公共施設の木質化の動き
- ⑦シカ被害対策などの取り組み

⑥ 山や森林に関わる活動に参加したことがありますか?

- ①よく参加している
- ②時々参加している
- ③1～2回参加したことがある
- ④参加したことがない

⑦ 今後、どのような活動に参加したいですか?(いくつでも)

- ①森林保全活動
- ②森林環境教育
- ③登山・ハイキング
- ④木工・クラフト
- ⑤自然観察
- ⑥山村交流
- ⑦その他()

⑧ 高知県が行っている森林環境税や本誌について、ご感想やご意見をお願いします。

.....

.....

.....

.....

*アンケートへのご協力、有難うございました。

mamori



高知県林業振興・環境部 林業環境政策課
〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号
TEL/088-821-4586 FAX/088-821-4576
E-Mail/030101@ken.pref.kochi.lg.jp
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030101/>

森の文化・自然体験メニュー窓口

こうち森のささやき

<http://www.moritomidori.com/sasayaki/>

森林環境税は、県民みんなが負担することで森とのかかわりを認識し、森を守っていくという森林保全を目的とする高知県の税制度です。県民税に年額500円を上乗せするもので、個人、法人ともにご負担をいただいております。発行日/2013年6月 制作・編集/クリケット「季刊高知」編集部 with ゴーゴデザイン 門田幹也

この冊子は再生紙を使用し、大豆油インクで印刷しています。

